

～教科・領域のポイント～

【特別の教科 道徳】

1. 学習指導要領改訂のポイント

(1) 道徳教育と道徳科の関係

道徳教育は、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行うもの・・・これまでの道徳教育と道徳の時間の関係と変わらない。

道徳教育の目標

・・・よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと

道徳科の目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、
道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、
物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己
の（人間としての）生き方についての考えを深める学
習を通して、（ ）は中学校
道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

道徳教育の目標と統一

このような学習を目指す、
学習活動

道徳科で育てるもの

道徳性の諸様相（学校教育における捉え方）

- ・道徳的判断力 それぞれの場面で善悪を判断する能力
 - ・道徳的心情 道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情
 - ・道徳的実践意欲 道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き
 - ・道徳的態度 道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え
- * 内面的資質（目には見えない心の部分）を育てる。

授業で育てようとする中心となる諸様相は何かを考え、ねらいを設定する。

主体的・対話的で深い学び

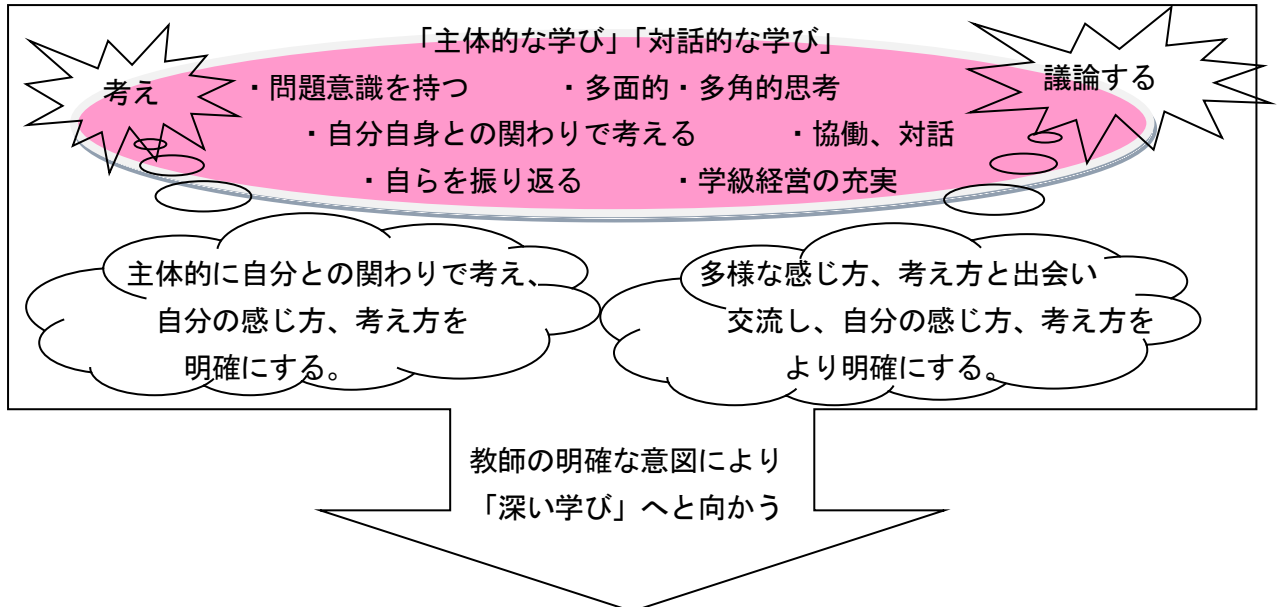
- ・・・道徳科では「考え、議論する道徳（答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う）」の実現

(2) 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点

- ・主題やねらいの設定が不十分な単なる

生活経験の話合いの指導・・・授業がどこを目指しているか分からない。

- ・読み物の教材の登場人物の心情理解のみに終始する指導・・・自分事として考えていない。
- ・望ましいと思っていることを言わせたり書かせたりする指導・・・教師の一定の価値観を押し付けている

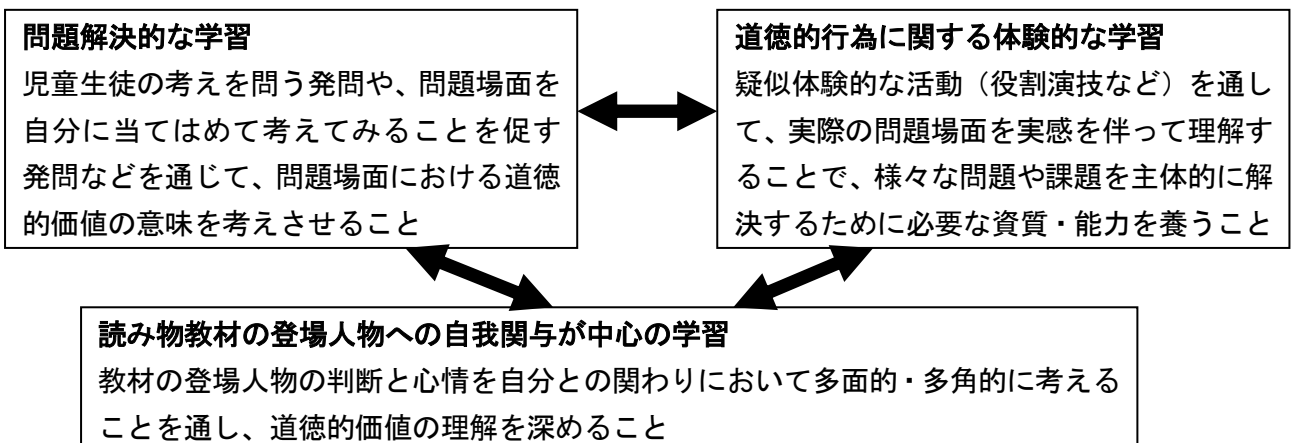


道徳科の深い学びの姿

多様な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己の関わりで（広い視野から）多面的・多角的に捉え、自己の（人間としての）生き方について考えること

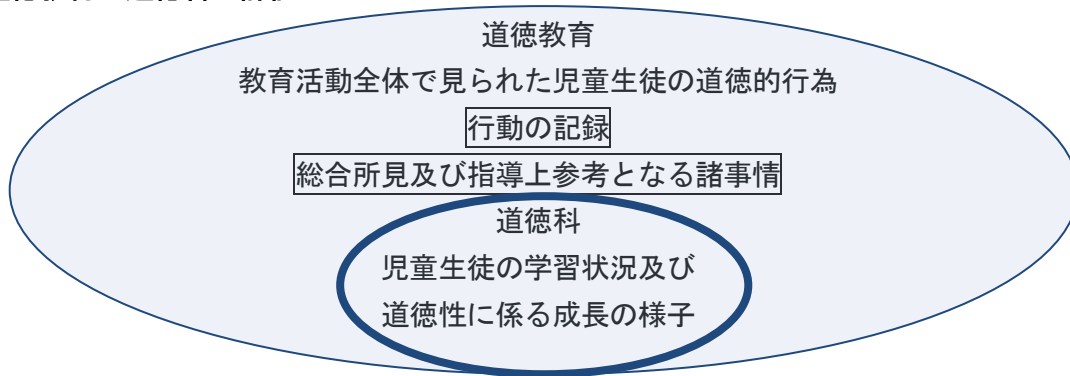
将来、道徳的な選択や判断が求められる問題に対峙した時に、自分にも他者にとってもよりよい選択や判断ができるような資質・能力を育てることにつなげる

深い学びにつながる指導方法の例



これらは多様な指導方法の一例であり、それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではない。児童・生徒の発達の段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫する。その際、それらの活動を通じて学んだ内容の意義などについて考えることができるようにする。道徳科における具体的な学習プロセスは限りなく存在し得る。

(3) 道徳教育と道徳科の評価



道徳科の評価の基本的態度

道徳科は、道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によって道徳性を養うことがねらいである。

道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲及び態度を諸様相とする内面的資質である。このような道徳性が養われたか否かは、容易に判断できるものではない。

しかし、道徳性を養うことを学習活動として行う道徳科の指導では、その学習状況や成長の様子を適切に把握し、評価することが求められる。

道徳科の評価の在り方

- ・ 数値による評価ではなく、記述式
- ・ 個々の内容項目ごとではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価
- ・ 学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視
- ・ 発達障害等のある児童生徒が抱える学習上の困難さの状況等を踏まえた指導及び評価上の配慮を行う

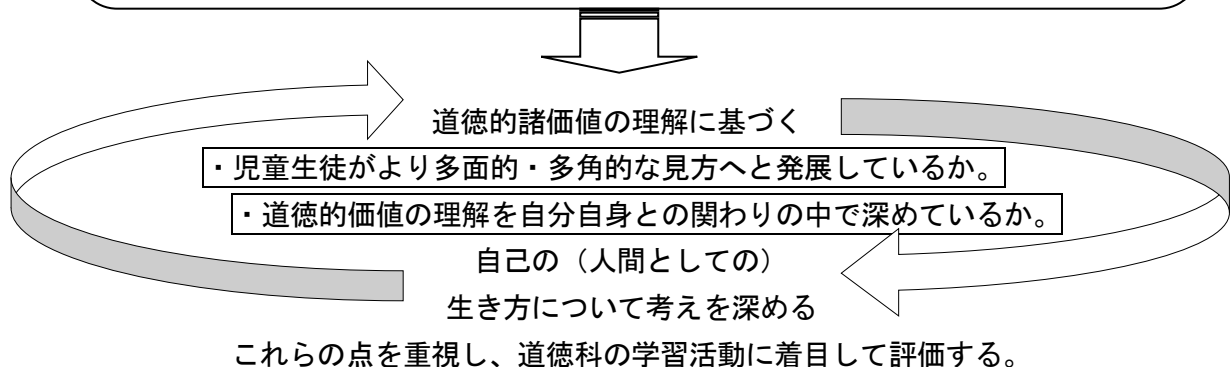
道徳科の授業における児童生徒の評価の視点

* ねらいとする道徳的価値について、道徳的な判断力等の諸様相が育っているか。

⇒ 評価するのは困難

* ねらいとする道徳的価値が理解できたか。

⇒ 道徳科は知的理解を求めている。この評価では価値理解だけになってしまうことが懸念される。



児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか。

- ・ 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている。
- ・ 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。
- ・ 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

- ・ 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。
- ・ 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目している。
- ・ 道徳的な問題に対して自己の取り得る行動と他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている。
- ・ 道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。

評価のための具体的な工夫例

児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積したもの
 児童生徒が道徳性を養っていく過程での児童生徒自身のエピソードを累積したもの
 作文やレポート、スピーチやプレゼンテーションなど具体的な学習過程
 児童生徒が行う自己評価や相互評価

特に配慮すべきこと

授業中の発言がない 文章表現が得意ではない 表情にも表れにくい

授業でどのように見取っていくのかを校内で検討しておくことが必要
 授業者は、意図的に観察したり、指名したりして、評価できる根拠を集めることが必要

道徳科は、児童生徒の人格そのものに働き掛けるものであるため、その評価は安易なものであってはならない。しかし、児童生徒のよい点や成長の様子などを積極的に捉え、それらを日常の指導や個別指導に生かしていくよう努めなくてはならない。

児童生徒の評価ができる道徳科の学習が「考え、議論する道徳」でもある。

2. 授業づくりのポイント

(1) 質の高い多様な指導方法の例

読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

登場人物に共感する

登場人物に共感して、自分の体験から気持ちを考える。

自分との関わりで考える

問題解決的な学習

児童生徒自身が興味や関心から問題を取り上げ、これまでの知識や経験を基に、作業や話し合い等によって問題を解決する主体的な学習

⇒問題解決の過程を取り入れた学習（問題解決的な学習）

・問題解決的な学習例

・問題の発見、設定、特定 本当の親切とはどのようなものだろう
(道徳的価値に関わる事象)

・解決に向けた追求、探求 自分の体験やそれに伴う考え方や感じ方を基に自分なりの考えをもち、友達との話し合いを通して道徳的価値のよさや難しさを確かめる

・問題の解決 本当の親切とはこのようなものだ(一般的なまとめ)
・・・「わたしにとっての親切とは～だな」となり、全員が一つにならない

・問題解決的な学習の道徳的な問題例

- ①道徳的価値が実現されていないことに起因する問題
・・・(例) その価値のよさに気付いていない
- ②道徳的諸価値について理解が不十分又は誤解していることから生じる問題
・・・(例) 自由のはき違え
- ③道徳的諸価値のことは理解しているが、それを実現しようとする自分とそうできない自分との葛藤から生じる問題
・・・(例) 分かっているのにできないのは～。
- ④複数の道徳的価値の間の対立から生じる問題
・・・(例) 人によって大事なものは違う、どちらを選ぶか。

道徳的行為に関する体験的な学習

役割演技は、登場人物の気持ちや考えを感じ取るだけでなく、頭で考えたり、口で言うのは簡単だけれど実際に行動に移すことが、どれだけ大変なのかを実感できる疑似体験もできる。

・道徳的行為に関する体験的な学習例(スキルを身に付けさせることが目的ではなく、道徳的価値のよさや難しさを感じ取らせることが目的)

- ①実際に挨拶や丁寧な言葉遣いなど具体的な道徳的行為をして、礼儀のよさや作法の難しさなどを考える。
- ②相手に思いやりのある言葉を掛けたり、手助けをして親切についての考えを深めたりする。